

第7回生涯学習審議会（2018.12.21.）傍聴報告

12月21日の9時30分から、第7回生涯学習審議会がありました。

傍聴者は、私を含めて4人でした。

主な議題は、生涯学習推進計画（2019-2023）（案）についての説明を聞き（この中に図書館に関する計画がちりばめられている）、町田市立図書館のあり方についての答申案について討議し、まとめることでした。推進計画案自体を討議する場ではなかったのですが、答申案を検討するうえでは、推進計画との関連することもたくさんあり、両方についての話合いがなされました。

今回の答申案について見てみると、事務局が作った答申イメージに今までの2回半の討議を盛り込んだもので、「3. 今後の町田市立図書館のめざすべき姿」も、「4. 再編を進める上での留意点」も最初に事務局が用意した「答申イメージより」から少しずつ変わっていました。3. のめざすべき姿については、「子どもの読書活動の充実につながる環境整備」の他に、「あらゆる市民が利用しやすい図書館」「地域のコミュニティ形成の拠点となる図書館」、「地域の課題や社会状況の変化に対応した施設運営」などという具体的な記述が増えました。答申イメージでは、再編が前提の文言が各項目に入っていましたが、答申案では、「再編の検討」となっています。

「図書館のあり方見直し」については、図書館協議会には諮問されなかったのですが、審議会の席上で、協議会の各メンバーの意見をまとめたものを協議会委員長が述べる時間が与えられたので、審議委員が話し合いに入る前に、協議会委員長が、配布した資料を基に、項目ごとに「あり方見直し」に書かれていることの問題点を挙げ、どうあるべきかを訴えることができました。

答申案 p.5「運営経費」のところに「図書購入にかかる費用は、2013年度は5800万円をこえていたものの、2017年度は、3000万強にとどまっています。」という文言が加わりました。しかし、答申案の p.3「利用状況」には、資料費の減少が貸出数に大きく影響しているの、貸し出し数の減少を示すグラフだけでなく、資料費の減少を示すグラフも載せてほしいと前回会議で要望したにもかかわらず、相変わらず貸出数の減少しか載っていなかったことについて、審議会委員から指摘と記載の要求が再度ありました。答申確定版では加えられることと思います。

また、p.8の「4.再編を進める上での留意点」では、委員より「（4）地域住民や利用者との対話」については、議会への請願も出ている。ちゃんと市民の意向を受け止めてほしい。また、（4）の文言はこのままでは廃止が既成事実のように書かれている、「万が一廃止となる場合には」と入れるべきとの指摘もありました。

答申案には、集約を是とする文言は入っていません。また、留意点の（5）の運営体制検討の視点でも、指定管理者制度導入を進める方向ではなく、様々な手法のメリット・デメリットについて、より詳細な検討を重ねていくことが必要と結んでいます。答申案では、結論として、具体的な再編の方向は何も出しておらず、多くの委員が、さらにいろいろ修正すべき点を指摘したり、あらたな提案もしました。

1月9日に答申が提出される予定で、事務局は今日の議論、提案を盛り込みたいと発言していましたが、事務局と会長とでどこまで今回の答申案から多くの委員の考えに近いものに修正をしてくれるかはわかりません。でも、少なくとも、答申案では集約も指定管理者制度も支持していないので、市は、答申を理由に集約とか指定管理者制度導入へとは持って行けないと思います。（MS）